

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.20 ◇◆
2010年4月28日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
 - ・「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクト主催 公開セミナー「地理的犯罪分析と犯罪予防」参加レポート
 - ・非行少年立ち直り支援(講演・シンポジウム)
「少年非行の背景を考える」～居場所を求める少年たち～ 参加レポート
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

◆◆◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

皆さんこんにちは！

4月も下旬を迎えましたが、冬と春の間を行ったり来たりといった具合で、どうもすっきりしない日が続きますね。

そんな中、衆院法務委員会が全会一致で可決したのが、時効の見直しに関する改正案。殺人・強盗殺人は時効廃止、強姦致死等いくつかは時効が延長され、時効を迎えていない未解決事件にも適用されます。課題も指摘されていますが、政権交代からの一つの大きな動きとして注目です。

また、メディアで熱く報じられているのが、事業仕分け第2弾。当機構も対象となっており、つい先日ヒアリングが行われたばかりです。競争的資金については、「総合科学技術会議の在り方を中心に科学技術政策を抜本的に見直す」という結論に落ち着いたようです。

当領域でも現在、外部有識者による中間評価を受けています。評価結果の公表はもう少し先ですが、評価委員会との議論も踏まえ、これまでの活動を振り返りつつ、社会に役立つ成果の創出に向けて、より一層取組みを強化していきたいと考えています。

プロジェクトについては、「計画的な防犯まちづくり支援システムの構築」プロジェクトが、4月に独自のWEBサイトを立ち上げました。

子ども安全まちづくりパートナーズ → <http://kodomo-anzen.org/>

開発を進めている防犯まちづくりを支援するマニュアルを閲覧できるほか、現在、マニュアル適用モデル地区の募集もしています。防犯まちづくりに興味がある！という方は、是非サイトをご覧になって下さい。

その他、「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトでは先日、海外から研究者を招へいして、公開セミナーを開催しました。その模様を今号のレポートにて紹介します。

また、「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトでは5月28日に名古屋で「被害と加害を防ぐ家族と少年のサポート・システムの構築—相談窓口における支援の方向性—」をテーマにセミナーを開催するそうです。

このプロジェクトでは、犯罪からの子どもの安全という問題について、被害と加害という一見相対するとも思える事柄の防止に、医療機関や矯正施設との連携、そして地域でのサポートも視野に入れながら取り組んでいます。

様々な被害を受け、その結果非行を重ねてしまう子どもたちの実情を知り、子どもたちの立ち直りを地域で支援することについて考える。そんなシンポジウムを東京都が主催し、参加してきましたので、こちらのレポートも掲載しています。

それでは、最後までお楽しみください。



- 「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクト主催
公開セミナー「地理的犯罪分析と犯罪予防」参加レポート
平成22年4月9日 東京大学生産技術研究所セミナー室（東京都目黒区）

GIS（地理情報システム）と犯罪分析。皆さんは何を思い浮かべますか？
警察や自治体がウェブサイトで公開している犯罪発生マップや地域安全マップなどでしょうか？

1990年代以降、GISの普及により、犯罪研究が飛躍的に進展しただけでなく、分析結果を警察活動や被害防止に役立てる取組みが進められています。
原田 豊 科学警察研究所犯罪行動科学部長が代表を務める当領域のプロジェクトもその1つですが、やはり進んでいるのは欧米です。

今回、プロジェクトで招聘したジェリー・ラトクリフ教授（米国テンプル大学犯罪学科）はその第一人者で、元警察官。単に研究するだけでなく、警察活動への応用にも取り組んでおられるということで、科学的アプローチに

よる防犯対策と研究成果の社会実装を念頭に置く本領域としても、大変関心があります。

セミナーは、定員50名のところ80名は参加していた様子。参加者も、研究者、企業の方、NPOや行政、警察で犯罪対策に関わっている方などバラエティに飛び、関心の高さが伺えました。

セミナーは、海外からラトクリフ教授、日本からは中谷友樹 立命館大学准教授、原田代表が講演し、総合討論という流れで進みました。

ラトクリフ教授の講演テーマは、近接性。犯罪者の普段の行動範囲（例えば、家から勤務先）に近接していると犯罪に遭遇する機会が増え、被害者となるリスクが高まると言われています。犯罪をしようとでかけるのではなく、たまたまターゲットを見かけたら犯罪を起こすことの方が少なくないといことです。

では、どの程度“近接”するとリスクが高まるのでしょうか？これを考える上で重要なのが時間的制約です。何時までに職場につかなければならない、という制約があれば、自ずと犯罪を起こす空間も狭められます。GISを用いれば、時間的制約も含めて犯罪者の行動範囲を分析し、シミュレーションできることが紹介されました。

その他にも、酒場の近隣で起こった犯罪を分析し、トラブルが起こる“悪い”酒場がどの程度の範囲まで影響するのか分析した事例を紹介。警察活動への提言など、実務への応用についても触れられました。

時間軸ということでは、次の中谷准教授は、時空間キューブという、2次元の地図に時間軸を取り入れた3次元空間で分析可能なツールを用いた犯罪分析について紹介。京都府警から得た犯罪発生データを解析した研究成果の説明がなされました。

犯罪は転移するということが言われます。ある犯罪予防策が成功しても、犯罪は別の場所や時間に移ってしまうというものです。時空間キューブを用いて犯罪発生状況を時期別に可視化してみると、ある時期を境に犯罪発生の地域が変化している様子が見てとれました。この技術を用いれば、単に時期や地域の遷移が見てとれるだけでなく、転移を可視化することができ、新たな解釈が導き出せるかもしれないといのです。

講演の後に少しお話を伺ったところ、この時間軸を取り入れたGISの活用というのは、まだまだこれからの分野ということでした。

原田代表からは、GISを活用したプロジェクトの紹介がなされました。ここで課題となるのが、情報収集の方策です。例えば被害実態については、現在、様々な自治体や教育委員会で、不審者情報などを収集・発信しています。それらは独自に行われており、学校区、市町村、全国単位での比較は難しい状況ですが、同じ調査票を用いれば、自分たちの地域の現状などを他と比べながら知る手掛かりにもなります。

実際に開発中の調査票を用いてヒヤリハット経験について調査を行ったところ、学校ごとに経験があると答えた生徒は4~11%台と異なる結果が得られたとのこと。可視化・分析に有効なGISですが、基になる情報についてしっかり考えなければなりません。質問者からは是非使ってみたいというコメントも寄せられ、今後の発展が期待されます。

一方で、誰がそういった調査結果の分析をするのか？という問題もあります。総合討論でも投げかけられたこの問題は、とても重要です。ラトクリフ教授は、日本の警察には情報分析官が実質的にほとんどいないと指摘しました。例えば、

ロンドンの警察は警視庁より総数は少ないものの、情報分析官は数百名いるのに対し、警視庁は6名というのです。

また、分析した情報を活かすには、誰に伝えればいいのでしょうか？現場の担当者でしょうか？教授は、分析した情報を意思決定者に伝え影響を及ぼすことが、犯罪の起こる環境を改善していく上で重要であるというモデルを提唱しています。分析の担い手をどう確保するのか。これも、意思決定者にかかっているのです。

教授には、米国やオーストラリアで研究者、分析官、意思決定者がどう交流しているのかというお話も別途伺い、領域の活動を進める上でのヒントもいただくことができ、有意義な会でした。

(領域担当 N.A.)



●非行少年立ち直り支援（講演・シンポジウム）
「少年非行の背景を考える」～居場所を求める少年たち～ 参加レポート
平成22年4月17日 東京都庁都民ホール（東京都新宿区）

近年の少年非行の傾向として、少年院を仮退院してから約4分の1の少年が、5年以内に非行に走り再び施設に収容されていると報告されています。

これまで非行少年の立ち直り支援は、少年院での矯正教育や仮退院後の保護観察など国の施策に限られ、自治体が関わることはほとんどありませんでした。しかし現在、非行少年の立ち直りを地域で支援することは、少年の再犯を防ぎ、良好な地域社会の構築に繋がるとの考えが広まりつつあります。

そこで今回東京都では、非行少年たちに直接接してその立ち直りを支援している方々から、現場の状況、体験談などを伺い、少年非行の背景、地域社会でできる支援について考える場として講演とシンポジウムを開催しました。

講師の坪井節子弁護士は、子どもの人権救済センターにおいて長年、いじめ、虐待、少年犯罪等の問題を抱える子どもたちの相談をうけ、様々な形の支援活動を続けておられます。

坪井氏はこう訴えました。「皆さん虐待されている子どもがいると聞けば、なんて可哀想、早く救い出さなければと思われれます。しかしそれが非行となると一転、なぜ救わなければならないのか、なぜあんな子どもの人権を保障するのか、厳罰に処すべきだ。そんな声が聞かれます。しかし現場にいと、虐待予防と非行予防の根っこは同じとを感じる」と。

坪井氏は、ある少女の少年審判における付添人となりました。「なんでシンナーなんか吸ったの？」と尋ねると「見たくないことが沢山あったから」と回答。少女は父親に暴力を振るわれおり、10歳になってようやく自分の足で家から逃げ出しました。でもどこへ行けばいいのかわからなかった。誰でもいいから傍にいて欲しかった。自分の居場所を街の少年グループに求め、勧められたシンナーに手を出しました。

これは一つの例ですが、私たちの周りには、親からの虐待や家庭内の不和など様々な理由で帰る家をなくし、行き場を失った子どもたちがいます。更生したくても、悩みを相談する相手も安心して過ごせる居場所もなく、機会

に恵まれず抜け出せない少年がいます。

こういった子どもたちを保護する施設として、児童相談所等の公的施設がありますが、年齢の制約、定員超過等により、助けが必要な子どもたちを十分に保護することができていないのが現状です。そんな子どもたちが安心して過ごせるシェルターを作ろうにも、子どもには経済力がなく、親権という大きな壁が立ち、はだかり容易なことではありません。非行少年の中には、受入先がなくやむを得ず少年院送致となる子どもがいる現状です。

はたして、子どもの人権とは何なのでしょう。

坪井氏は、自身の経験を通して3つの柱を掲げています。

1. 生れてきてよかった。ありのままのあなたでいい。
2. ひとりぼっちじゃないんだよ。
3. あなたの人生は、あなたが歩く。

大切にされた経験のない子どもたちは、他の人を大切にすること、ということがどういふことなのか果たして分かるのでしょうか。坪井氏は子どものシェルターを立ち上げ、子どもたちの居場所を作り、独自の取り組みを進めているとのこと。

講演後のシンポジウムでは、坪井氏他、NPO法人として少年たちの立ち直りを支援している方々からも支援現場の実情についてお話を伺うことができました。地域社会においてそれぞれの立場から、独自のアプローチを試みておられました。当領域では多機関連携の可能性を探るプロジェクトも走っています。

今後、国、自治体だけでなく、各法人といったそれぞれの特性を活かした多機関で連携することにより、更なる発展を期待したいと思います。

(領域担当 M.W.)

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取組み

青少年のインターネット利用環境実態調査の結果を公表しました（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/index.html>

犯罪統計資料（平成21年1～12月分）【確定版】（警察庁）
<http://www.npa.go.jp/newlyarrived/?seq=3186>

少年矯正を考える有識者会議（法務省）
<http://www.moj.go.jp/shingi1/shingi06400003.html>

平成21年度児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議審議の
まとめについて（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1292763.htm

平成22年4月9日全国児童相談所長会議資料（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/100409siryou.pdf>

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成22年5月9日 日本学術会議 公開シンポジウム
「心と身体から教育を考える」
<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf/90-s-1-1.pdf>

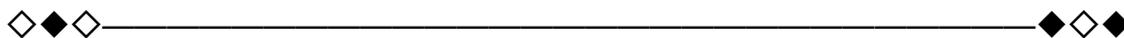
平成22年5月15日 2010年度 CoSTEP 特別講演会
「ネットの上に学びの場を創る」
<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/costep/news/article/25/>

平成22年5月22日 第52回日本小児神経学会総会 市民公開講座
「発達障害は、今、増えているのか
－現状の把握と未来への提言－」
<http://jscn52.umin.jp/public.htm>

平成22年5月28日～ 日本小児救急医学会
<http://www.anshinkodomokan.jp/jsep24/>

平成22年5月29日～ 日本認知心理学会第8回大会
<http://www.cogpsy.jp/index.html>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころはトピックスから、第3回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム いざというとき なにが頼りか ーどう身を守り どう助けるかー開催報告です。

犯罪からの子どもの安全に向けて、子どもたちの能力をどのように引き出し、子どもを守る大人の力をどう高めるかをテーマに開催されたシンポジウム。当日の講演内容、パネルディスカッション時に交わされた議論はもちろんのこと、ポスター発表のデータ（一部プロジェクト）や予稿集などシンポジウムに関するデータを一挙に掲載しています。

当日参加できなかった方、ご参加いただいた方で思い返して見てみたいという場合は、ぜひご覧になってください。

また、前号で掲載予定としてお知らせした「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトの実施者および関与者へのインタビュー記事が掲載されましたので、こちらも併せてご覧ください。

トピックス → <http://www.anzen-kodomo.jp/column/>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆ 1位 イベント情報
<http://anzen-kodomo.jp//event/index.html>

- 2位 企画調査終了報告書
「幼稚園・保育所等における幼児の安全管理手法確立のための研究開発」
http://anzen-kodomo.jp//reporters/pdf/H19_watanabe_houkokusyo.pdf

- 3位 プロジェクト実施者インタビュー 第8回
「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」
http://anzen-kodomo.jp//pdf/20100409_1.pdf

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2010年4月28日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
